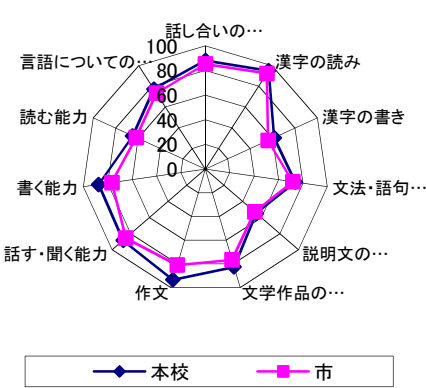


宇都宮市立上河内中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	88.3	85.4
	漢字の読み	95.1	92.4
	漢字の書き	61.4	56.0
	文法・語句に関する知識	73.8	71.7
	説明文の内容の読み取り	54.8	53.0
	文学作品の内容の読み取り	82.7	76.7
	作文	93.5	81.1
観点別	話す・聞く能力	88.3	85.4
	書く能力	87.4	76.6
	読む能力	64.9	61.6
	言語についての知識・理解・技能	77.2	73.5



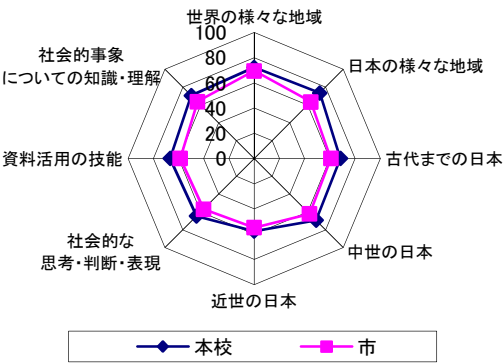
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	本市の平均をやや上回る。授業中の私語はほとんどなく、指示されたことは間違いなくやる事ができている。 聞く力は定期テストでの得点力も高い。	聞き取りテストを定期的実施する。発問に対して適切に答える学習訓練を継続する。
漢字	本市の平均を上回っている。単元前の漢字・語句の予習を継続した成果と思われる。	引き続き、単元前の予習をしっかりさせ、辞書を早く引く力を高めさせていきたい。また、新聞等の視写学習も定期的に取り入れていきたい。
文法・語句に関する知識	主語や述語のねじれや副詞の呼応などに間違えずに取り組むことができている。難語句については、日頃の読書量で成否を分けた。	単元による集中学習はもちろんだが、新聞記事等を通して、言葉の学習をし、語彙力をつけさせたい。
説明文の内容の読み取り	説明的文章の読み取りは全国的に弱い傾向にある。生徒の興味関心がもてるような書き方をしている教材が多いのだが、敬遠されがちである。	筋道を立てて、自分の考えを展開していく筆者の論法を俯瞰したり、それをまねて自分で説明文を書く楽しさを体感できる時間を確保していきたい。
文学作品の内容の読み取り	本校は読書が好きな生徒が多い。特に文学作品に関する本を日常的に読んでいる生徒が多く、登場人物の心情もよく読み取れている。	学年が進むにつれて、主人公の心情をとらえにくい作品も出てくる。行動描写や情景描写に着目させ、心情の正確な読み取りをさせたい。
作文	作文の力は本市を大きく上回っている。日頃、読書をたくさんしているため、書くことにそれほど抵抗を感じていない。	文章の書き方を徹底的に習得させ、筋道の通った、豊かな表現ができるように指導を継続していきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の様々な地域	72.2	69.4
	日本の様々な地域	73.5	63.4
	古代までの日本	68.4	60.8
	中世の日本	69.4	62.1
	近世の日本	57.7	54.9
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.7	56.9
	資料活用・技能	66.7	58.7
	社会的な思考・判断・表現	70.5	63.7



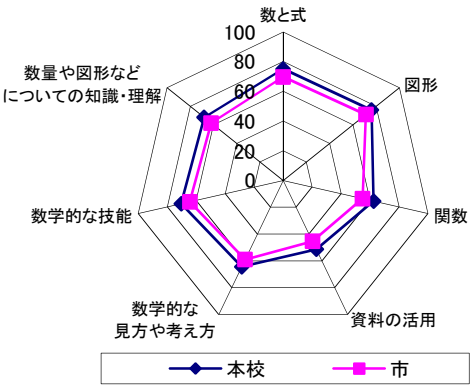
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	市平均を上回っている。各項目ごとに見てみると、地球儀を活用した各大陸の位置関係、ユーロについての理解、EUの経済格差に関する資料の読み取りと経済格差がもたらす影響についての考察については、市平均を上回っているが、唯一EUの特徴について、日本とアメリカとの比較を通しての考察が0.3%市平均を下回った。	ヨーロッパ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観し、地球儀や地図帳などを活用しながら、基本的な内容を理解していることが分かる。しかし、拡大を続けるEUには、どんな問題が発生しているか、近年、EU諸国との結びつきを強めている日本やアメリカとの関係について資料から読み取ることができるよう、学習テーマについてまとめ学習を行ったり、意見交換をしながら理解を深めさせていきたい。
	日本の様々な地域	市平均を上回っている。特に都道府県の位置と名称、世界の人口分布地図から人口密度の読み取り、人口構成の特色の理解に関しては90%以上の高い正答率を出している。	
歴史	古代までの日本	市平均を上回ってはいるが、7世紀半ばの朝鮮半島半島への理解が、38.3%と低い正答率であった。	7世紀半ばの東アジアの背景を踏まえながら、日本の情勢が説明できるようにさせたい。具体的には、「なぜ大野城や水城をつくらせたか」について意見交換し「白村江の戦い」後の情勢をまとめさせ、「白村江の戦い」の敗北で中大兄皇子が国内の動揺をおさえ、律令国家実現のために行ったことを考えさせることで、理解を深めさせたい。 武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配がしいに全国に広まり、武家社会が発展していったという歴史の流れを、幕府と朝廷の関係、土地制度の変化、文化など時代の特色から多面的・多角的に考察できるようにしていきたい。 信長・秀吉の統一事業の過程について、信長・秀吉を対比させながら、経済政策・宗教政策などに関連させて理解させたい。
	中世の日本	市平均を上回っている。特に資料から武士の館の特徴を読み取り表現することに関しては、87.7%の正答率で14.5%も市平均を上回っていた。室町時代の文化財を写真資料からとらえることが46.9%と若干低かった。	
	近世の日本	市平均を上回っている。しかし、織田信長の統一事業やキリスト教政策の背景については51.9%、30.2%と正答率が低かった。	

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	75.1	69.7
	図形	76.0	71.2
	関数	62.3	54.7
	資料の活用	51.4	45.4
観点別	数学的な見方や考え方	64.5	59.1
	数学的な技能	70.4	64.4
	数量や図形などについての知識・理解	68.1	62.1



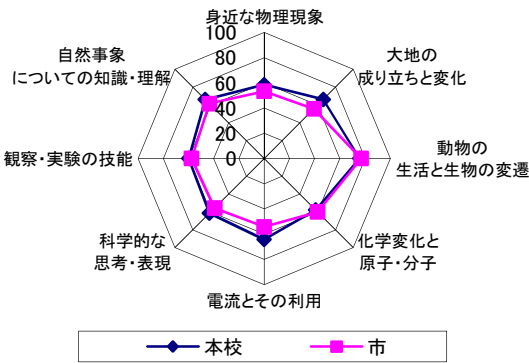
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	相対的には市や全国の平均を上回っている。しかし、全体的に見ると、文字式の除法では分子が複雑になると操作ができなくなってしまう。また、2元1次方程式を組み合わせたものが連立方程式であるという認識が薄いようだ。	文字式の除法では、分子がどんなに複雑でも、1つのまとまりとして考えられることを指導したい。連立方程式では計算力だけでなく、その理論も伝えていきたい。
図形	市の平均を上回る結果となったが、唯一半球の体積について下回ってしまった。授業では具体物を多用し視覚的に認識できるように工夫した。	具体物の活用はこれからも続けていきたい。球の体積は公式を覚えていないか、文字式の計算の段階でのつまずきを解消していきたい。
関数	基礎的な部分の理解度は高いが関数の利用では市ともども50%を下回る結果となった。デジタル教材を活用し、傾き切片の変化や、式・表・グラフを連動させることを心がけた。	今後は、様々な問題に取り組ませ、身の回りの事象を関数的に捉え、それを利用できるような力を身につけさせていきたい。
資料の活用	正答率が市ともども約50%に留まった。その中でも、近似値の真の値を求める問題では38%と極めて低い。不等号の理解ができていないようである。	新たな用語が登場してくるので、その定義を理解させ、反復練習で定着を図りたい。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	58.5	53.4
	大地の成り立ちと変化	66.3	55.7
	動物の生活と生物の変遷	75.8	76.9
	化学変化と原子・分子	57.8	60.0
	電流とその利用	64.2	54.2
観点別	科学的な思考・表現	61.5	55.6
	観察・実験の技能	59.8	57.7
	自然事象についての知識・理解	66.2	61.5



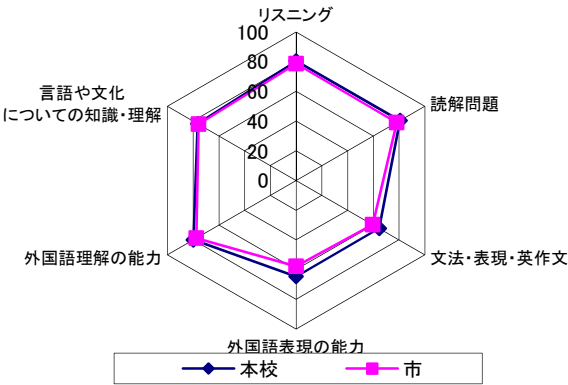
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	市の平均を大きく上回っている。ただし、力に関する分野では、正答率が50%を割り込んでいる内容もある。	力学の分野では、見えない力を感覚的に捉えているだけだと、学力が身につかないことが多い。力の性質について、系統的に理解できるよう、取り組ませていきたい。
大地の成り立ちと変化	市の平均を上回っている。地層の重なりに関わる内容については、高い正答率が得られたが、岩石に関わる内容については、正答率が50%を割り込んでいる内容もある。	どの分野でも、実験観察は重要であるが、岩石や鉱物に関しては、覚えなければならない内容(知識・理解の内容)が多いのも確かである。授業では、しっかりとした知識と理解が身につくよう工夫していく必要がある。
動物の生活と生物の変遷	比較的高い正答率が得られているが、市の平均と同程度である。セキツイ動物の分類については、正確な分類の仕方を理解していると考えられる。	動物については、動物の分類を行うまでの過程で、動物の特徴を多方面から考察し、いくつかの角度から分類できるよう指導する。
化学変化と原子・分子	全体的に平均して、市と同程度の正答率になっている。物質の分解については、比較的高い正答率が得られたが、還元については理解が不十分である。	還元反応について、基礎でつまづいている生徒については、現象をモデルで考えさせることを徹底させる。基礎のできている生徒については、問題演習を多く行わせる。
電流とその利用	オームの法則の基礎は70%以上の正答率を確保しているが、電圧計などの器具の操作に関しては、約半数の生徒がよく理解できていないようである。 また、家庭の配線が並列つなぎであることは理解していても、その理由についてはわかっていない生徒が多い。	器具の操作、計器の読み取りなどは実験だけでなく、問題演習などでも繰り返し練習させる。 家庭用の配線について考えさせたり、電気料金を考えさせるなど、身近な電気の話をも取り入れて興味を喚起させる。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	リスニング	80.4	78.7
	読解問題	80.7	78.0
	文法・表現・英作文	64.5	59.4
観点別	外国語表現の能力	64.6	57.8
	外国語理解の能力	79.9	77.6
	言語や文化についての知識・理解	76.5	75.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング	リスニング能力の向上に対しては、授業に定期的にリスニング対策を盛り込んできたため、平均を上回ることができた。	左記の通り、今後も取り組んでいくことが有効と考える。
読解問題	昨年度はこの項目だけが平均点を下回ったため、この一年間、教科書中心の読解力向上学習を増やしたところ。平均を上回ることができた。	多種多様な英文に触れる機会を増やす時間がとれなければ、同じ英文を何回も繰り返し読解するだけでも学習効果が上がると考えられるため、ドリル的な学習の機会をさらに設けていきたい。
文法・表現・英作文	例年、この中でも英作文能力が低い現状があるため、会話が中心だったALTとのT-Tにおいてもネイティブスピーカーからの英作文直接指導や、自分の考えを英語で述べるスピーチの時間も確保した。また、毎時間の単語テストの時間も取り入れた。	大幅に平均点を上回る結果となったため、今後も左記のような取り組みを行っていくこととする。